

TMS-19-Q・GC 錠に関する臨床的検討

加藤政仁・吉友和夫・加藤錠一・南条邦夫・武内俊彦

名古屋市立大学第一内科

北浦三郎・山本素子・花木英和

名古屋市立東市民病院内科

山本俊幸・鈴木幹三・岸本明比古

名古屋市厚生院附属病院内科

TMS-19-Q・GC を急性気管支炎 3 例，急性扁桃炎 3 例，急性咽頭炎 2 例，気管支拡張症に伴う慢性気道感染症急性増悪 1 例の計 9 例に使用し，著効 1 例，有効 5 例，やや有効 1 例，無効 2 例の成績を得た。有効以上は 9 例中 6 例，66.7% であった。

原因菌が推定できた症例は 1 例で，気管支拡張症例の *Serratia* である。本剤投与により除菌されず臨床効果も無効であった。

自・他覚的副作用は認めず，また本剤に関連したと思われる検査値異常も認めなかった。

TMS-19-Q は東洋醸造株式会社より開発された新しい 16 員環マクロライド系抗生物質である。抗菌力は従来のマクロライド系抗生剤に比べ，グラム陽性菌，嫌気性菌，マイコプラズマなどで 1～2 管良好な成績を示し，またレジオネラやキャンピロバクターにも良好な感受性を示す。血中濃度は一般に高く，特に TMS-19-Q・GC 錠は製剤に緩衝作用をもたせることにより胃液が低酸である人においても高い血中濃度が得られるようになった。ヒトにおいては投与 30 分後にピークを示し，尿中にはその 3% 程度が排泄されるのみである¹⁾。

このような特徴を有する本剤を臨床的に検討する機会を得たのでその成績について報告する。

I. 対象・方法

昭和 57 年 6 月から 10 月までに当科を受診した，急性気管支炎 3 例，急性扁桃炎 3 例，急性咽頭炎 2 例，気管支拡張症に伴う慢性気道感染症急性増悪 1 例の計 9 例の患者に本剤を投与した (Table 1)。

患者は 16 歳～67 歳 (平均 37.3 歳) で男性 4 例，女性 5 例であり，すべて外来通院患者である。

投与方法は全例 1 回 200mg を 1 日 3 回毎食前に経口投与した。投与日数は 7 日間 5 例，14 日間 4 例であり，総投与量は 4.2g 5 例，8.4g 4 例である。

II. 成績

効果判定は症状改善度，検査成績値の変動などをもとに主治医が判定し，著効 (excellent)，有効 (good)，やや有効 (fair)，無効 (poor) の 4 段階評価を行なった。

副作用の発現には注意し，また Table 2 に示したような諸検査を本剤投与前後に行なった。

臨床効果は著効 1 例，有効 5 例，やや有効 1 例，無効 2 例であり，9 例中有効以上は 6 例，66.7% であった。

原因菌が推定できた症例は 1 例で症例 9 気管支拡張症例の *Serratia* である。本剤投与により除菌されず，臨床効果も無効であった。

自・他覚的副作用は認めず，また本剤に関連したと思われる検査値異常も認めなかった。

III. 症 例

症例の一覧を Table 1 に示し，詳細を次に述べる。

症例 1 16 歳，女，急性気管支炎。

鉄欠乏性貧血にて通院中，39°C の発熱，咳，咽頭痛あり本剤投与す。1 週間の経過で自覚症状消失し，白血球数 8,900 から 4,100 に減少，CRP + から - となり有効例と判定した。

症例 2 34 歳，女，急性気管支炎。

1 週間前から 38°C の発熱 2 日間あり，その後微熱が持続し，咳，痰，呼吸困難感あり当科受診す。本剤 1 週間投与により自覚症状改善し有効と判定した。

症例 3 27 歳，男，急性気管支炎。

約 4 週間前より咳，痰持続し，また，初診 1 日前より微熱をきたしたため来院，本剤 2 週間投与により自覚症状の改善，白血球数 9,400 から 6,000 に減少し，CRP 3+ から - となり有効例と判定した。

症例 4 23 歳，女，急性扁桃炎。

1 週間前より微熱，咽頭痛，咳，痰が持続し来院す。初診時咽頭および扁桃の発赤著明であり，本剤 2 週間投与したが微熱持続，咽頭および扁桃所見変わらず無効と判定した。続いて Cefradine 750mg/日を 1 週間処方し

Table 1 Results of Clinical Trials with TMS-19-Q-GC

Case No.	Name	Age	Sex	Diagnosis	Underlying disease (Complication)	Daily dose (g × times)	Duration (days)	Total dose(g)	Isolated organism	Clinical effect	Side effect
1	M.N.	16	F	Acute bronchitis	Anemia	0.2 × 3	7	4.2	N.D.	Good	—
2	H.K.	34	F	Acute bronchitis	Allergic rhinitis	0.2 × 3	7	4.2	N.F.	Good	—
3	T.G.	27	M	Acute bronchitis	—	0.2 × 3	14	8.4	N.F.	Good	—
4	N.M.	23	F	Acute tonsillitis	—	0.2 × 3	14	8.4	N.F.	Poor	—
5	S.O.	36	M	Acute tonsillitis	—	0.2 × 3	7	4.2	N.F.	Excellent	—
6	N.B.	67	M	Acute tonsillitis	—	0.2 × 3	14	8.4	N.F.	Good	—
7	N.N.	32	F	Acute pharyngitis	Allergic rhinitis	0.2 × 3	14	8.4	N.F.	Fair	—
8	K.I	55	F	Acute pharyngitis	Chronic bronchitis Obsolete pulmonary tuberculosis	0.2 × 3	7	4.2	N.F.	Good	—
9	K.B.	46	M	Exacerbation	Bronchial ectasis	0.2 × 3	7	4.2	<i>Serratia</i>	Poor	—

Table 2 Laboratory findings of before and after treatment with TMS-19-Q

Case No.	Name	ESR (hr)	CRP	RBC ($\times 10^{11}$)	WBC	Platelet ($\times 10^3$)	Eosino. (%)	GOT	GPT	Al-P (IU,KA)	BUN	Creatinine	Urine
1	B*	15	+	417	8,900	33.2	2	21	14	82	10	0.9	-
	A*	13	-	407	4,100	27.3	2	17	9	71	8	0.8	-
2	B	23	-	429	6,000	33.7	2	21	14	8.5	18	0.6	
	A	17	-	397	5,800	30.7	2						
3	B	25	3+	505	9,400	26.7	1	16	17	7.9	15	1.0	-
	A	2	\pm	515	6,000	28.0	2	27	28	9.0	19	1.0	-
4	B	5	-	417	4,000	15.0	2	16	14	4.9	10	0.9	-
	A	17	\pm	433	4,600	18.0	1	16	15	5.1	7	0.7	-
5	B	38	5+	518	13,000	20.7	0	20	7	64	16	1.2	\pm
	A	9	-	486	7,600	41.7	0	14	17	59	11	0.8	
6	B	43	5+	443	8,300	25.0	2	38	52	90	16	1.1	
	A	25	-	449	5,800	29.2	0	31	29	76	12	1.0	
7	B	2	+	450	7,400	22.3	0	13	12	5.3	12	0.6	
	A	2	-	412	7,300	21.6	0	16	11	5.0	11	0.7	
8	B	62	2+	409	6,700	22.1	1	20	12	6.9	17	0.7	-
	A	21	-	393	4,700	22.2	0	24	21	6.2	15	0.7	
9	B	7	-	549	10,400	36.0	2	15	21	8.7	13	8.7	-
	A	4	-	568	10,700	33.1	3	28	22	8.0	17	8.0	-

* B: Before treatment

A: After treatment

たが、患者は来院せずその後の経過は不明である。

症例 5 36 歳, 男, 急性扁桃炎。

5 日前より発熱, 咽頭痛あり近医で抗生剤投与を受けていたが症状改善せず当科来院す。初診時, 体温 38.5°C, 咽頭および扁桃の発赤腫脹著明, 白血球数 13,000, CRP 5+ であった。本剤 1 週間投与により自覚症状, 咽頭および扁桃所見改善し, 白血球数 7,600, CRP - となり著効と判定した。

症例 6 67 歳, 男, 急性扁桃炎。

2 日前より発熱, 咽頭痛, 咳あり当科受診。初診時, 体温 38.0°C, 咽頭および扁桃の発赤腫脹を認め, 白血球数 8,300, CRP 5+ であった。本剤 2 週間投与により自覚症状, 咽頭および扁桃所見改善し, 白血球数 5,800, CRP - となり有効と判定した。

症例 7 32 歳, 女, 急性咽頭炎。

基礎疾患にアレルギー性鼻炎のある患者であり, 1 週間前より咳, 痰, 鼻汁あり来院。初診時, 咽頭発赤腫脹あり CRP + であった。本剤 2 週間投与により痰量減少し, CRP - となったが, 咳, 鼻汁持続のためやや有効と判定した。その後, 他の抗生剤は使用していない。

症例 8 55 歳, 女, 急性咽頭炎。

基礎疾患に慢性気管支炎, 陳旧性肺結核のある患者であり, 2 日前より咽頭痛, 咳, 痰, 鼻汁あり来院。初診時, 咽頭および扁桃に発赤腫脹あり CRP 2+ であった。本剤 1 週間投与により自覚症状改善し, CRP - となり有効と判定した。

症例 9 46 歳, 男, 気管支拡張症に伴う慢性気道感染症急性増悪。

基礎疾患に気管支拡張症があり, 10 年来咳, 痰が持続している患者である。数日来, 咳, 痰増強したため来院, 喀痰からは *Serratia* が 3 株培養された。本剤 1 週間投与したが喀痰量変わらず, また *Serratia* も除菌されず無効と判定した。その後 AT-2266 を投与したがこれも無効

であった。

VI. 考 案

Community acquired すなわち一見健康と考えられる人が肺炎などの呼吸器感染に罹患した場合, 一般に *S. pneumoniae* や *S. aureus* などのグラム陽性菌の関与が多い。またマイコプラズマ肺炎流行時には原発性非定型性肺炎の約 1/3 は *Mycoplasma* によるものと考えられている。これらの症例に対して抗生剤第一選択は従来よりマクロライド系抗生剤である。

TMS-19-Q・GC 錠は新しく開発されたマクロライド系抗生物質であり, 抗菌力は従来のものに比べ, グラム陽性菌, 嫌気性菌, マイコプラズマなどで 1~2 管良好な成績を示し, またレジオネラやキャンピロバクターにも良好な感受性を示すといわれている。このような優れた抗菌力を示す TMS-19-Q・GC 錠の臨床面での有用性を検討するため, 急性気管支炎 3 例, 急性扁桃炎 3 例, 急性咽頭炎 2 例, 気管支拡張症に伴う慢性気道感染症急性増悪 1 例の計 9 例に本剤を使用した。その結果, 有効以上は 6 例で 66.7% の有効率であった。無効例を検討すると, やや有効の 1 例は基礎疾患にアレルギー性鼻炎があり, これが自覚症状を遅らせた原因と考えられた。無効の 2 例は, 1 例は自覚症状のみで炎症所見が当初からなく抗生剤療法は期待できないと考えられた。もう 1 例は, 気管支拡張症に伴う慢性気道感染症急性増悪で *Serratia* が原因菌である。非感受性菌のため無効であったと考えられる。安全性については, 本剤投与による自・他覚的副作用および臨床検査値異常の発現はみられなかった。

以上, 本剤は各種呼吸器感染症治療に有用かつ安全性の高いものと考えられる。

文 献

- 1) 第 31 回日本化学療法学会総会, 新薬シンポジウム IV. TMS-19-Q, 大阪, 1983

CLINICAL STUDIES ON TMS-19-Q

MASAHITO KATO, KAZUO YOSHITOMO, JOICHI KATO

KUNIO NANJO and TOSHIHIKO TAKEUCHI

The First Department of Internal Medicine, Nagoya
City University, School of Medicine

SABURO KITaura, MOTOKO YAMAMOTO and HIDEKAZU HANAKI

Department of Internal Medicine, Nagoya City
Higashi General Hospital

TOSHIYUKI YAMAMOTO, KANZO SUZUKI and AKIHIKO KISHIMOTO

Nagoyashi Koseiin Geriatric Hospital

TMS-19-Q-GC tablet was administered to 9 patients with various infections : 3 cases of acute bronchitis, 3 cases of acute tonsillitis, 2 cases of acute pharyngitis and 1 case of acute exacerbation of chronic airway infection associated with bronchiectasis, and the results obtained were excellent in 1, good in 5, fair in 1 and poor in 2. The efficacy rate was 66.7% when excellent and good were evaluated as effectiveness.

There was only 1 case of bronchiectasis in whom the causative bacteria was suspected to be *Serratia*, which was resistant to TMS-19-Q. The clinical efficacy of this case evaluated to be poor.

Neither subjective nor objective side effects were observed. No abnormal laboratory findings related to this drug were noted.